

## 修士論文要旨

研究テーマ：通いの場参加者におけるフレイルの実態と専門職関与による変化に関する研究

学籍番号 m1780048

氏 名 森 優太

研究指導教員 竹田 徳則

### 概 要

#### 【背景・目的】

通いの場において専門職によるフレイル予防が推奨されているが、そこへの関与と参加者の参加継続による変化や効果の検証は限られている。本研究の目的は、通いの場参加者のうちフレイル該当者を 1 年間追跡し起こる変化を専門職関与の有無別で確認する。

#### 【対象・方法】

本研究のデザインは前向きコホート研究とし、通いの場理学療法士（以下、PT）関与群（以下、関与群：5箇所77名）、通いの場PT非関与群（以下、非関与群：7箇所105名）、通いの場非参加群（以下、非参加群：89名）の計3群として関与前後のフレイル改善割合と健康関連指標変化の確認を行った。関与群には1回/月・90分、PTが通いの場を訪問し、集団体操や健康講話等を行なった。統計処理として、プレフレイル割合は、McNemar検定を用いて関与前後の比較、関与群/非関与群/非参加群の3群間、関与群/非関与群の2群間の各比較には、対応のないt検定、一元配置分散分析および $\chi^2$ 検定にて、関与前における各群の対象特性を確認した。有意差のあった変数を共変量として投入し、二元配置分散分析を行い交互作用が得られた場合には対応のあるt検定を行なった。

#### 【結果】

総合的プレフレイル割合では、関与前のプレフレイル該当者は、関与群 29 名（37.6%）、非関与群 17 名（16.1%）、非参加群 14 名（15.7%）であった。関与群では関与後に 16 名（55.1%）が健常となりプレフレイルの有意な減少を示した。同様に関与前の身体的プレフレイル該当者は、身体的プレフレイルは、関与群 34 名（44.1%）、非関与群 29 名（27.6%）で、関与群では関与後に 16 名（48.3%）が健常となり、プレフレイルの有意な減少を示した。総合的プレフレイルの関与群/非関与群/非参加群の 3 群間比較では、関与前において性別に有意差を認め（ $p=0.001$ ）、それを共変量として分析した結果、LSN-6 に有意な交互作用

( $F=4.112$ ,  $p=0.012$ ,  $\eta^2=0.071$ ) があり関与群のみ前後で有意に向上していた ( $p=0.002$ )。身体的プレフレイル関与群/非関与群の2群間の比較では、関与前には基本属性に有意差を認めなかった。分析の結果、CS30は有意な主効果 ( $F=5.97$ ,  $p=0.017$ ,  $\eta^2=0.008$ ) を認めた。また、CS30 ( $F=8.79$ ,  $p=0.045$ ,  $\eta^2=0.007$ )、5m歩行速度快適 ( $F=9.4$ ,  $p=0.003$ ,  $\eta^2=0.132$ )、5m歩行速度最速 ( $F=9.35$ ,  $p=0.005$ ,  $\eta^2=0.052$ )、は交互作用を認め、CS30 ( $p=0.036$ )、歩行速度快適 ( $p=0.032$ )、歩行速度最速 ( $p=0.045$ ) 共に関与群でのみ前後で有意に向上していた。

### 【結論】

本研究では、通いの場参加者におけるフレイルの実態把握と、専門職関与有無別での改善の違いを明らかにすることを目的とした。その結果、通いの場参加者におけるプレフレイル高齢者は15%~40%程度認めた。また、1年間追跡した結果、関与群である1回/月の通いの場の参加と専門職関与によって、総合的プレフレイルは55.1%、身体的プレフレイルは48.3%が健常に改善を認めた。関与群で身体的プレフレイルでは、CS30、歩行速度快適、歩行速度最速が、総合的フレイルではLSNS-6が関与前後で有意に向上していた。